

校内研修 資料

支援ツールライブラリー

—教材集・支援ツール集—

京都府立舞鶴支援学校

目次

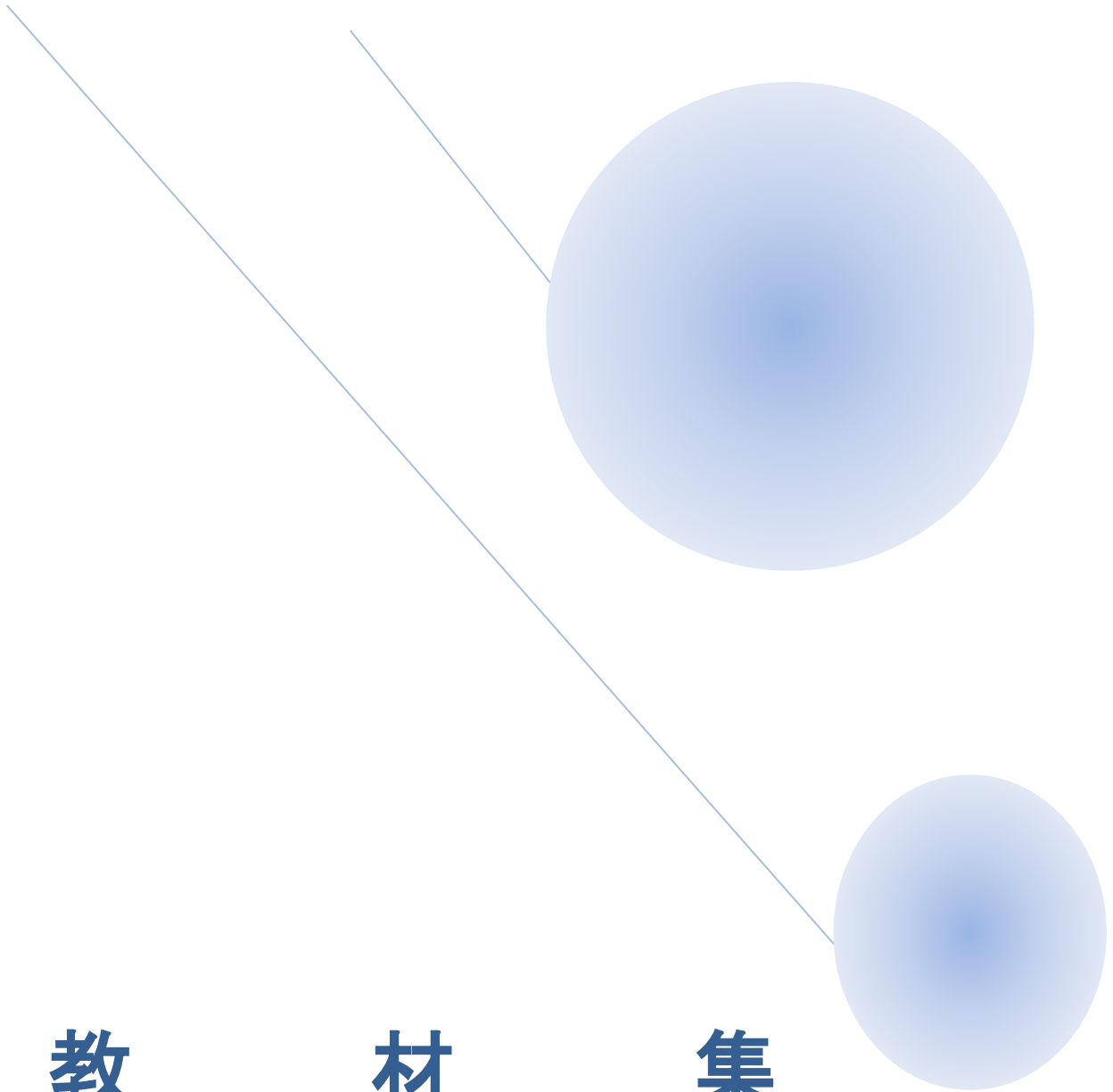
教材集

- ・はじめに
- ・各教科
 - 国語
 - 算数
 - 音楽
- ・日常生活の指導
- ・自立活動

支援ツール集

- ・はじめに
- ・各教科
 - 国語
 - 算数・数学
 - 音楽
 - 職業・家庭生活単元学習
- ・日常生活の指導
- ・特別活動
- ・遊びの指導
- ・自立活動
- ・支援ツールを活用した指導事例

- ◇ 本支援ツールライブラリーは、研究成果を踏まえ校内研修会用資料として作成しています。先行実践を踏まえた実践レポートとしてご理解ください。
- ◇ 先行実践、文献等については精査し、できる限り記載いたしましたが、不明のものもあります。この点御了解の上、お手元に置いて御一読、御指導ください。



教 材 集

はじめに

☆ 本研究にあたり、下記のように教材についての考えをまとめ、教材集の内容を作成した。

教材（教材・教具）とは

『教材は、授業目標を達成するための文化的素材である。この文化的素材の資料的側面が教材であり、教具を分けて考えると、その道具的側面が教具である。』

（「特別支援学校の授業づくり基本用語集」太田正己著より引用）

教材作成の留意点 ～本校の捉え～

☆ねらいがはっきりとしていること

- ・つけたい力が明確であること。

☆なによりおもしろいこと

- ・児童生徒の興味・関心を引くものであること。

☆柔軟性、発展性のあるもの

- ・児童生徒の実態に応じて変化やアレンジができるもの。
- ・児童生徒にとって、わかりやすいもの
- ・比較的、誰にでも作れたり、使えたりすること

☆ 上記の考えを基に、1つの教材を次の内容で示しています。

教材の概要とねらいについて

・どのような力をつけたいかを記述

教材の写真・授業の様子

・教材の写真や、授業計画などを掲載

教材を活用する際の『指導のポイント』

・教材をどのように活用して、児童生徒に指導すればよいかを記述

活用場面での『アレンジ』『こんなときには？』『こんな教材も』

・うまくいかなかった時の教師の支援の工夫や、教材のアレンジ方法、教材の発展について記述

まねっこ できるかな？

～ことばのイメージを膨らませて～

【概要】 言語発達の不十分な児童が、楽しみながら言葉のイメージを膨らませる。

【ねらい】

- ・マカトン・サインを使って、歌を歌うことができる。

【授業の進め方】

♪犬のおまわりさん

- 1 マカトン・サインを確認し、言葉のイメージを膨らませる。
- 2 指導者と一緒にマカトン・サインを使って歌う。
- 3 児童が1人で歌う。



ねこ



マイクを使って、歌いたい気持ちを高める。

犬、わんわん

お家

<p>指導のポイント</p> <ul style="list-style-type: none">・マカトン・サインの活用や指導者の動作を大きく、表情を豊かにし、児童がイメージを持ちやすいようにする。・児童が主体的になれる機会を作る。・たくさん褒める。	<p>アレンジ</p>	<p>こんなときには？</p>	<p>こんな教材も etc</p>
<ul style="list-style-type: none">・その他のおすすめ曲 「あいあい」「さいた」等。			

【参考・引用文献】

童謡「犬のおまわりさん」作詞 さとうよしみ 作曲 大中 恩
改定日本版 マカトン・サイン各語彙 ステージ1～4

まねっこ できるかな？パート2

～ことばのイメージを膨らませて～

【概要】言語発達の不十分な児童が、絵本の登場人物の模倣をし、楽しみながら言葉のイメージを膨らませる。

【ねらい】

- ・ 絵本の登場人物の動作の模倣をすることができる。
- ・ 先生役になり、本を読むことができる。

【授業の進め方】

- 1 絵本の読み聞かせを聞く。
(マカトンの活用・登場人物の動きの模倣)
- 2 交代して、児童が読み手になる。
 - ・ 登場人物の模倣を、指導者も一緒にする。

模倣がしやすい絵本を使い、児童が動作のイメージを自由に持てるようにする。

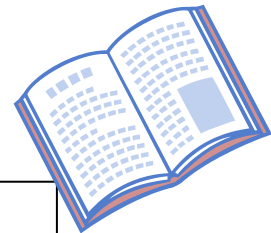
指導者と児童で手を
たっち！

おてて たっち



あくしゅ！

あくしゅは



指導のポイント

- ・ マカトンの活用や指導者の動作を大きく、表情を豊かにして、児童がイメージを持ちやすいようにする。
- ・ 児童が主体的になれる機会を作る。
- ・ たくさん褒める。

アレンジ

こんなとき
には？

こんな教
材も etc

- ・ 其他のおすすめ絵本
「だるまさんが転んだ」シリーズ等

【参考・引用文献】

武内裕人 (2009) 「おてて たっち」 株式会社くもん出版

新沢としひこ (2005) 「あかちゃんしかけえほん あくしゅでギュッ」 ひさかたチャイルド

しつもんしあいっこ！ ～コミュニケーション～

【概要】 名前カードと質問カードを組み合わせて、友だち同士で質問しあう。

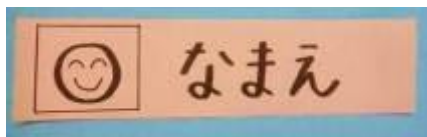
【ねらい】

- ・ゲームとして質問をし合うことで、コミュニケーションの意欲を高める。

【授業の進め方】

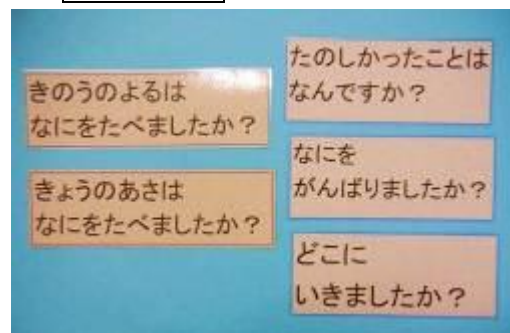
- 1 生徒（A）が名前カードをひき、名前を呼ばれた生徒（B）は起立する。
- 2 Aは質問カードをひき、名前カードと質問カードを組み合わせてBに質問をする。
- 3 BはAからの質問に答える。
- 4 交代して繰り返す。

名前カード



〇〇くん、きょうのあさは
なにをたべましたか？

質問カード



指導のポイント

- ・カードを引くことで、ゲームとして楽しめるようにする。
- ・質問カードの質問に答えるだけでなく、指導者を中心に関連した質問等をし、話を膨らませる。

アレンジ

こんなときには？

こんな教材も etc

- ・同様の内容を文字でもやりとりができるように指導していきたい。（手紙）
- ・友だち同士がやり取りをすることで、文字への関心を高めていきたい。

【教科・領域名 国語】

「文字（単語）を覚え、書けるように」

～主体的に、意欲をもって取り組もう～

【概要】 絵カードと文字カードをマッチングし、単語（文字）を書く。

【ねらい】

- ・絵カードをみて、単語（文字）を書くことができる。

【授業の進め方】

- 1 自分で絵と文字カードをマッチングさせる。
- 2 文字カードの上に重ねて、一部文字抜きカードを並べて、続きの文字を書く。
- 3 文字が書けた時点で教師に「できました」と報告する。
- 4 正しく書けているか点検してもらう。



指導のポイント

- ・タイマーをセットし、毎回の授業のはじめに一定時間行い、学期や年間を通して継続して取り組むことで、定着（文字の獲得、学習スタイル）を図っていく。

アレンジ

こんなときには？

こんな教材も etc

- ・文字抜きカードの部分（文字）を変えていく。
- ・単語の種類（語数）を増やしていく。
- ・文字抜きカードで書けない場合は、下に重ねてある文字カードをヒントにして書けるようにする。

【参考・引用文献】

藤原義博監修 富山大学教育学部附属養護学校著（2004）「子ども生き生き支援ツール」 明治図書出版

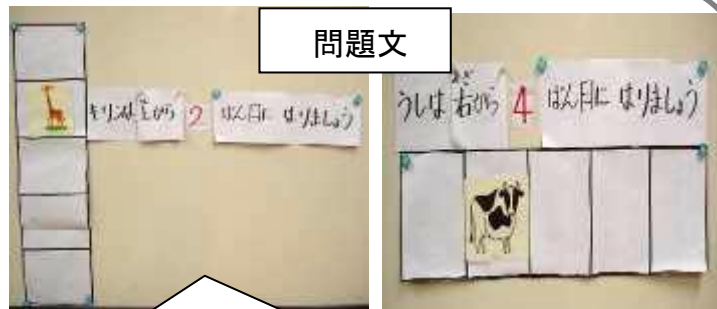
何番目（～はどこ） ～空間的な認知を高める～

【概要】「何々から何番目」などの問題文にあわせて、カードを貼り、発表する。
【ねらい】

- ・「上から（下から）～何番目」、「前から（後ろから）～何番目」、「右から（左から）～何番目」など可以说。

【授業の進め方】

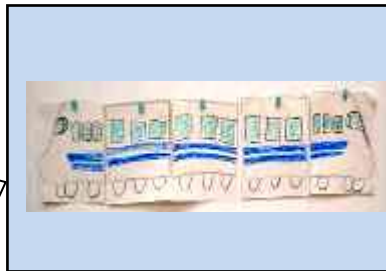
- 1 指導者が「キリンはどこ？」と問いかける。
- 2 問題文「～から何番目」を見て、カードを貼る。
- 3 「キリンは上から2番目です。」のように発表する。



問題文

問題文は、よくわかる位置に配置する。

位置関係がわかってくると、「前から」「後ろから」と起点を換え、位置を確認する。



指導のポイント

- ・身近な動物を用いて、動物の家がどこにあるのかという設定で学習を進める。
- ・始めは、上下がわかりやすい。上下の関係をおさえてから行う。
- ・授業の始めには、どこが起点になるのかを確認しながら進める。
- ・クイズ形式にすると児童たちは興味を持ち取り組むことができる。

アレンジ

こんなときには？

こんな教材も etc

- ・「～の～から何番目（上の左から3番目）」のように、二つの指示に答えられるようにする。
- ・日頃使っている棚に、右、左と示し生活場面でも位置関係がわかるようにする。
- ・順番がわからない時は、枠の上に番号を付ける。

【参考・引用文献】

石井 聖（1998）『自閉症児のことばの学習』 ココロETセンター

何の音？

～ よ～く聞いて、楽器の音を当てよう♪ ～

【概要】目をつぶり、楽器の音を聞いて、どの楽器の音かを当てる。

【ねらい】

- ・ 集中して音を聞くことができる。
- ・ いろいろな楽器の音と実物を結び付けることができる。
- ・ 友だちとのやりとりを楽しむことができる。

【授業の進め方】

- 1 解答する児童（A）、問題を出す児童（B）を一人ずつ決める。
- 2 Aはうしろを向き、耳を澄ます。
- 3 Bは、
 - ① 楽器をひとつ選ぶ
 - ② 「J」(楽器を3回鳴らす)、何の音？
 - ③ 楽器を置く
 - ④ 「いいよ！」
- 4 Aは振り向き、どの楽器の音か当てる。
- 5 他のみんなは静かに見守る。
- 6 A「これだ！」
- 7 正解「まる～！」、はずれ「ブ～！」
- 8 交代して繰り返す。



指導のポイント

- ・ たくさんの楽器の中から選ぶのが難しい児童には、2択にするなど選択肢を少なくする。
- ・ 児童の実態に合わせた楽器を用意する。
- ・ 「なんの音？」「いいよ！」などのセリフは、はっきり言うように指導する。

アレンジ

こんなとき
には？

こんな教
材も etc

- ・ 身の回りにあるいろいろなものをたたいて、当ててみよう。（机、床、壁、ドア、箱、紙袋、ビニール袋、ふとん、水など）

【参考・引用文献】

神原雅之（2010）「“体を楽器”にした音楽表現 リズム&ゲームにどっぷり！リトミック 77 選」 明治図書

【教科・領域名 音楽】

身体表現 できるかな？ ～音楽に合わせて身体を動かそう～

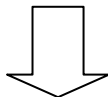
【概要】音楽に出てくる動物に合わせて身体を動かし、動物の動きを模倣する。

【ねらい】

- ・好きな動物を選ぶことができる。
- ・音楽をよく聞くことができる。
- ・指導者の動きを模倣することができる。
- ・曲に合わせて身体を動かすことができる。

【授業の進め方】

- 1 絵本の読み聞かせを聞く。
- 2 動物の絵カードと指導者の手本を見る。
- 3 音楽に合わせて指導者の行う動物の動きを模倣する。



【発展的な授業の展開】

- 1好きな動物の絵カードを1枚選ぶ。
- 2音楽を聞く。
- 3自分の動物の出番が来たら、絵カードを黒板に貼り、動物の動きを発表する。
- 4発表をした友だちに拍手！



指導のポイント

- ・自信を持ってみんなの前で発表ができるように、動きに慣れるまでは指導者と一緒に模倣をする。

アレンジ

こんなとき
には？

こんな教
材も etc

- ・「頭、うで、足」等の身体の名称や「ねこ、ぞう、らくだ」等の動物の名称をクイズ形式にして確かめると、言葉の学習にもつながる。

【参考・引用文献】

- ・エリックカール著 工藤直子翻訳（1997）「できるかな？-あたまからつまさきまで」 偕成社
- ・「CDエリックカール絵本うた」（2001）コンセル

みんなの名前を呼ぼう ～ipad を使って日直できるよ～

【概要】 言語表出が難しい児童が ipad を使用し、朝の会で健康観察を行う。

【ねらい】

- ・ipad 上の友だちの写真をポインティングして、友だちの名前を呼ぶことができる。
- ・誰の名前が呼ばれるか注意深く聞き、自分が呼ばれたら返事をするすることができる。

【教材の紹介】



- 1 コミュニケーションを支援するソフト『ねえ、きいて』を ipad にインストールする。
- 2 クラスの子ども顔写真を撮り、その写真に音声で名前を入れる。
- 3 顔写真をタッチすると、音声で名前を読み上げてくれる。

朝の会で A さんが日直の時に使用している。A さんが友だちの名前を呼び、友だちが返事をする。

指導のポイント

- ・児童にとって楽しい場面で使用することから始める。
- ・朝の会や授業中など、色々な場面で使用する。

アレンジ

こんなときには？

こんな教材も etc

- ・場所カードを提示して「〇〇へ行きたい」と要求をする。
- ・身体部位カードを提示して、調子の悪い部位を示す。
- ・ipod touch、DS 等でも同じように活用できる。

【参考・引用文献】

ipad 用ソフト『ねえ、きいて』Tor iken 開発

くっつけくっつけ、ばいきんばいばい♪ ～歯磨きの指導～

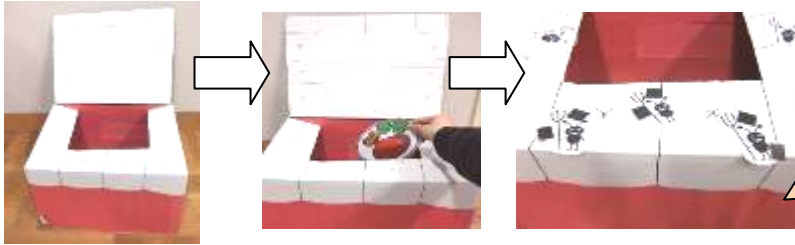
【概要】 歯についたばいきんを歯磨きをしてとる。

【ねらい】

- ・ 歯を磨くと、ばいきんがいなくなることがわかる。
- ・ 食べたままにしておくと、虫歯になることがわかる。

【授業の進め方】

食べてほっておくと…



歯を磨かないと、ばいきんが増えることを知らせる。

ハブラシで歯を磨くとどうなるか考えさせる。



磁石のついたハブラシ

ゴシゴシこすると…



ばいきんがハブラシにいっぱい！



ぴかぴかの白い歯に！



ばいきんがいなくなったことを知らせる。

虫歯になって真っ黒に！



ほっておくと、どうなるか知らせる。

指導のポイント

- ・ 実態に応じて、児童と一緒に次はどうなるかを考えながら行う。
- ・ 指導者が見本を見せた後、児童が実際に行う。

アレンジ

こんなときには？

こんな教材も etc

- ・ しっかり磨かないとばいきんがとれないように貼りつけておく。

めざせ息の達人 ～ローソクの炎を吹き消す～

【概要】話をするためにはかかすことのできない、息を意図的に使う力を育てる。

【ねらい】

- ・ 呼吸をため、勢いよく吐いたり、長く吐いたりすることができる。

【教材の紹介】



みんな大好き、「ハーピーバースデー」の曲を歌って、ケーキに見立ると意欲が増す。

- ・ 1本ずつ吹き消す
- ・ 5本を一息で吹き消す
- ・ 横から吹いて、何本消えるか競争する
- ・ 消さずに弱く吹いて炎をなびかせる

息を使う教材は、笛やラッパ、シャボン玉、風車など数多くある。

子どもの興味に合わせ、楽しみながら繰り返し行うことで、話すために必要な息を使う力を高めることができる。



指導のポイント

- ・ 口から息がしっかり出せているのか、口唇をすぼめる動作ができているのかなどを確かめながら指導する。
- ・ 「ピ」「プ」といいながら吹き消すことで発音の学習へ発展させることができる。

アレンジ

こんなときには？

こんな教材も etc

- ・ 鼻から息が抜けてしまい、鼻腔因閉鎖機能不全が疑われる場合は、専門医受診が必要になる。
- ・ 消すことが難しいときは、ティッシュを細かくちぎって吹き飛ばすなどから始めてみるとよい。

【参考・引用文献】

- ・ ことばのストレッチ研究会編集（2004）「ことばのストレッチ体操—発音・発語編（障害時のためのコミュニケーション指導）」明治図書出版

見て！そしてイメージへ ～ペープサート～

【概要】 見る力を引き出し、イメージする力を育てる。

【ねらい】

- ・ 注視できる。追視できる。
- ・ 見えていない部分をイメージする。
- ・ 見立て、つもり活動ができる。

【教材の紹介】



- ・ 衝立を立て、ペープサートの一部分だけを見せることで見えていない部分をイメージさせる。
- ・ 衝立の裏から、出したり引っ込めたりすることで、見えていない部分をイメージする力を引き出す。



- ・ 食べることをイメージしやすいように、ペープサートの口に切り込みを入れる。
- ・ 指導者から食べ物の模型を受け取り、ペープサートの口に入れさせる。

指導のポイント

- ・ イメージする力を育てることは、「ことば」の基礎として重要である。
- ・ 子どもが主体的に指導者とやりとりしたくなるように進めることで、イメージとコミュニケーションを合わせて指導することが大切である。
- ・ コミュニケーションの基礎として指導者とやり取りを通して、受け渡す力を引き出す。

アレンジ

こんなとき
には？

こんな教
材も etc

- ・ ペープサートを見ないときは、何に興味を持っているかを把握し、それを注視する、追視する力を育てることから始める必要がある。
- ・ また、「イナイナバー」など、相手をしっかり見る活動も大切である。

【参考・引用文献】

- ・ ことばのストレッチ研究会編集（2004）「ことばのストレッチ体操-発音・発語編（障害児のためのコミュニケーション指導）明治図書出版
- ・ 木村祐一（1989）「いただきますあそび」偕成社

タン タン 単語♪ ～音韻を正しく理解する～

【概要】歌のリズムに乗せ、音韻を意識して発音する。

【ねらい】

- ・打楽器（タンバリン等）を鳴らして、音韻を意識しながら単語を言うことができる。

音楽が大好きな児童生徒にぴったり！
リズムに乗せて楽しく言葉の学習をしよう！

『やおやおみせ』の歌に合わせて

♪やおやおみせに ならんだ しなもの みてごらん

よくみて ごらん かんがえて ごらん♪ 〈T (トマト) S (トマト)〉 × 2

トマト=タンタンタン
キャベツ=タンタンタン

【授業の進め方】

- 1 指導者が打楽器を打ちながら、単語を発音する。
- 2 児童生徒が歌に合わせて打楽器を打ちながら、単語を発音する。

3音の語を中心に、4音、5音と拡げていく。
2音が意外と難しい。



指導のポイント

- ・口の動きをはっきりと。
- ・3音の言葉から始めるとなじみやすい。
- ・まずは、指導者が手本となり、正しいリズムと発音を示す。
- ・生徒の学習課題によって、打楽器の打ち方を変える。

〈例：チョコレート〉

- ・『モーラ』を意識させる場合
「チョ」「コ」「レ」「ー」「ト」5モーラ
- ・『音節』を意識させる場合
「チョ」「コ」「レー」「ト」4音節

アレンジ

こんなときは？

こんな教材も etc

- ・学習したい言葉に合わせて、替え歌にする。
- ・身近な言葉を学習することで、日常生活での言語力につなげたい。
(友だちの名前、学校生活に出てくる物の名前、教科の名前など。)

【参考・引用文献】

引用曲：「やおやおみせ」 作詞不詳 フランス曲

にこにこ、シクシク、どんなきもち？ ～感情理解～

【概要】 実際の場面イラストと表情カードをマッチングさせる。

【ねらい】

- ・ イラストの場面に合った表情をマッチングさせ、気持ちを理解することができる。

【教材の紹介】

表情カード
(喜・怒・哀)



場面イラスト
(例：欲しい物を
友だちにとられそ
うになった時)



マッチング！

喜



怒



哀



喜：好きな虫を捕
まえた時
怒：欲しい物を友
だちにとられ
そうになった
時
哀：大人に怒られ
た時

個別学習でAくんに使用している。

表情カードのみでの感情理解が難しいため、場面イラストを用いることで感情理解を図っている。パターンで覚えることを避けるため、身近な場面をイラストにして学習していく。

指導のポイント

- ・ 対象児童がイメージしやすい場면을想定してイラストを提示する。
- ・ 児童が嫌な場면을フラッシュバックしないよう、楽しい雰囲気で行う。

アレンジ

こんなとき
には？

こんな教
材も etc

- ・ 自分自身の感情理解から他人の感情理解へつなげるためイラストを変えていく。

赤はとまる 青はわたる ～信号機の理解～

【概要】 信号について理解し、横断歩道を渡る。

【ねらい】 ・赤信号の時は止まり、青になってから横断歩道を渡ることができる。



【教材の仕組み】

赤、青各信号の後ろにプッシュライトをセットし、指導者がライトを点けたり消したりして操作する。

【授業の進め方】

- ①絵カードとともに、「赤・止まる」「青・歩く」を理解する。
- ②信号の色を見て、横断歩道を渡るか止まるか判断する。
- ③信号の色が変わる場面設定で、渡ろうとする時点での信号の色を確認する。
- ④赤信号では横断歩道を車が横切っていて、渡るとはねられる危険があることを知る。
- ⑤青信号でも、曲がってくる車があることを知り、左右の安全確認をする。

【般化・深化】

実際の信号や、他の授業、移動時等に練習して定着を図る。

指導のポイント

- ・ 児童の理解に応じて到達点を設定する。（「横断歩道からそれずに歩く」など）
- ・ 校外学習でも、横断歩道を渡る時に、信号の色を確認できることを目指す。

アレンジ

こんなときには？

こんな教材も etc

- ・ 作成したのは、学校の近くにある信号機（色の中に白い人型が浮かび上がるタイプ）と同じものだが、最近増えている信号機（黒の背景に赤や青の人型が光る）を使用して練習するとよい。

【参考・引用文献】

藤原義博監修 富山大学教育学部附属養護学校著（2004）「子ども生き生き支援ツール」 明治図書出版